高等学校生徒の体育の授業に対する態度の測定：Likert法によるアイテムの採択

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 野口, 義之
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/24858

高等学校生徒の体育の授業に対する態度の測定

——Likert 法によるアイテムの採択——

野　口　義　之*

はじめに

およそ、学校における授業は、教える者すなわち教師と教えられる学習者との関係、さらに学習する内容や学習方法など複雑な構造をなしており、これらの変数が流動的にからみあっているものである。そこでは、教師の力が大きく働く場合もあり、学習者の意欲が、あたかも独立変数的に何よりも優先する場合もあって、これらの要素間の相互作用には、不変の原則はみつけにくいものである。

因子分析的研究方法を主軸とするこの研究は、はじめに、主として、授業評価の立場を問題にし、ついで、授業全体に対する学習者の態度と教師の授業に臨む態度の類型(Q－テクニック)および、教材別にみた体育の授業に対する態度をとりあげてきた。

このまとめの報告は、今まで行なってきた第1報から第10報の一連の研究を総括するとともに体育の授業に対する態度測定（Likert法）のためのstatement, opinion（材能）を集約したものである。

§1．研究の概要

本研究の標本は第1表に示すとおりである。研究の対象は、全て高等学校の生徒であり、調査はLikert法による態度調査によっており、全ての計算は、前任大学の京都教育大学の OKI-TAC4500, MELCOM COSMO700 System（2BM）によって行なわれている。計算機の使用に関しては、同大学教育実践指導研究センターの西之園教授にお世話になった。また、研究、調査に当っては、京都体育研究会のメンバーの協力をえた。ここに厚く感謝の意を表わす次第である。

(1) 授業評価

授業評価に関しては、これを教授行動、学習行動および学習集団の雰囲気の三つの領域に分け、因子分析的立場からそれぞれの因子構造を明らかにしている。これらの概要は、第1報から第3報、および体育の科学に述べている。こ

第1表　標　　本

調査名	(1) 43*	(2) 30A	(3) 30B	(4) 20	(5) 40	(6) 40	(7) 40
対　象	体育の授業				**器械体操マット	柔道 剣道	バレーボール バスケット ラグビー
調査人員	男：105 女：102	男：106 女：112	男：124 女：115	男：124 女：115	男：101	男：161	男：60
計算機	OKITAC 4500				MELCOM COSMO 700 S (2BM)		

*標本はすべて高等学校生徒である。
調査名の横の数字は、評定項目の数である。
**授業における教材名である。

*野口義之　金沢大学教育学部

のように、体育の授業において、先生の教授行動を評価させたほか、高等学校の体育担当教師自身が、どんな教授行動をとっていたかをふりかえって自己評価したものもとりあげている。

(2) 体育の授業に対する態度

体育を学習する生徒たちが、体育の授業にどのような態度を示しているかを明らかにするために、まず、それをマクロ（巨視）的にとらえた。それは、「体育の授業」という対象は、その概念の規定のしかたにより、その趣をことにする。体育の授業には、学習する教材により、これを好意的（favourable）にうけとられるものと、いやな嫌いなものもあるからである。このマクロ的にとらえた授業とは、学習内容を規定せずに、いわゆる「体育の授業」に対する態度を調査したものである。

ミクロ的にとらえた「体育の授業」とは、学習する教材を規定して、その教材の単元が終了した直後に調査したものである。ミクロ的にとらえた教材の類型は、個人運動、格技、集団運動の三つの類型にわかれている。

マクロ的にとらえた材能（statement）は43項目、30(Ａ)項目、30(Ｂ)項目と簡略化した20項目のものの４種類があり、ミクロ的にとらえようとしたものの statementは同じものであり40項目からなっている。

§2. まとめのねらいとその方法

体育の授業評価と授業に対する態度を因子分析的にアプローチした本研究では、その材能の選択、採択、すなわち、statementの決定が最も重要なことである。

今まで、43こ、30(Ａ)こ、30(Ｂ)こおよび20このstatementとスポーツ教材に関する40このstatementをいわば恣意的に採用してきた。

そこで、授業評価に関する因子構造と因子名を再確認しつつ、マクロ的にみた授業に対する態度（４種類）とミクロ的にみたスポーツ教材別（個人競技、格技、集団競技）にみた授業に対する態度の因子構造と因子名をまとめ、再確認する。

かくして、体育の授業に対する態度測定にかかわるstatementを上記の二つの種類に対応するものとしてそれぞれの望ましいstatementを精選する。なお、授業評価に関する要因をも参考にしたい。

§3. 結果一因子構造と因子名

授業評価と授業に対する態度の因子分析的研究の結果を総括して、まとめとしよう。

因子分析の結果えられた、各statementの共通因子負荷量をら列し、その右に identify された因子を算出された因子の番号を付して記録している。なお、その上,（下）,または(よこ)に statementの番号を記した。

独立した因子として identifyされた因子も、その共通負荷量には大きなちがいがある。一般に、その共通因子負荷量は大きいが、なかには非常に小さいものもみられる。

(1) 体育の授業評価、すなわち、体育の教師がとっていた教授行動、体育の教師自身が己れの教授行動の自己評価、ならびに生徒自身の学習行動についての因子行列と共通因子負荷量と因子は第２、３、４表に示すとおりである。

(2) マクロ的にみた授業に対する態度は、43問、30問の２つ、および20問よりなる４種類の因子分析を行なったが、それぞれの因子構造と因子は第５、６、７、８表に示している。

(3) ミクロ的にみた授業に対する態度の調査は、個人競技、対人競技および集団競技の３つの類型のスポーツの授業についてのものであるが、同じstatement 40項目よりなるものであった。その因子構造、共通因子負荷量は第９、10、11表に示すとおりである。

§4. 結　論

およそ因子分析的研究の最終の段階は、identify されたものに因子名をつけることになる。この場合、Ｎ次の行の因子負荷量の高いものを中心に恣意的に命名されるわけであるが、

第2表　教授行動の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1．授業中、わたしたちの表情や動作をみてまわる。	345		428	
2．この時間は、ここまでできるようになるのだ、という学習の目あてを示す。	462	Factor 6	659	Factor 4
3．わたしたちが考えるのに時間を与えてくれる。	547	(2)	395	(2)
4．学習する技能を先生みずからやってみせる。	557	Factor 3	414	
5．「つねる」、「たたく」等して罰をあたえるので、こわいことがある。	405	(4)	491	
6．体育の時間は、むりやむちゃをしないようにいう。	300		337	
7．えこひいきしないで、みんな同じようにあつかう。	485		489	
8．練習はまじめにやれという。	524		540	
9．授業に使用する運動用具等みずから準備する。	424		393	
10．練習では、理くつより実際にやることが大切であるという。	415		465	
11．この先生は授業中におこる。	439		524	Factor 3
12．授業中ふざけないようにいう。	308		424	(11)
13．学習する目標をはっきりいう。	437		493	
14．わたしたちと同じ気持になっていっしょに考えてくれる。	665		628	
15．友だちの話をよくきくようにいう。	620		548	
16．仕事（準備、そうじ、記録がかりなど）の役割をきめる。	387		538	
17．授業中お互いに助けあうようにいう。	581		467	
18．授業中は運動用具を大事にあつかうようにいう。	458		627	Factor 8
19．授業中、わたしたちの健康状態をみてまわる	580		529	(18)
20．友だちの演技に対して、よし、あしをみきわめるようにいう。	486		323	
21．運動用具の並べ方などをたしかめる。	482		480	Factor 5
22．学習する技能の本質が何であるかを理解させる。	635		327	(21)
23．運動するのにふさわしい服装について注意する。	270		347	
24．技能の学習で、できた人はできない人に教えるようにいう。	484		459	Factor 9
25．わたしたち（友だち）の発表をよくきくようにいう。	316		360	(20)
26．わたしたちが自信を持つようにする。	653		454	
27．授業はじめに準備運動をする。	408		388	
28．練習の順番を守るようにいう。	503		455	
29．適当なほう助（そばから助ける）をするようにいう。	622		563	
30．授業をたのしくしようとする。	785	Factor 1	511	
31．友だちどうし助けあって練習するようにいう。	514	(30)	526	
32．「準備がかり」などをつくってその人たちの協力を求める。	511	Factor 5	334	
33．そのスポーツのルールがわかるまで説明する。	592	(32)	375	
34．授業のあと、運動用具のあとかたづけをさせる。	461	Factor 4	470	Factor 1
35．学習している技能がよくできたときはほめる。	518	(34)	537	(34)
36．グループで話しあいをする前に、自分の考えをはっきり持つようにいう。	471		576	Factor 2
37．この授業時間のうちにやることを説明する。	610	Factor 2	596	(36)
38．運動の技能などの説明には図表を使う。	410	(37)	539	
39．けがをしないように注意する。	662		630	Factor 7
40．授業のとき、前に習ったことを聞く。	497	Factor 7	577	(38)
41．何でもわかりやすく説明する。	660	(40)	510	
42．授業では、ゆきあたりばったりではなくて計画性を持っている。	524		419	Factor 5
43．練習するスポーツのルールを自分たちで作りかえるようにいう。	003		001	(42)
44．運動用具の安全を点検する。	021		009	
45．できないときは、人にたずねたり、自分で調べたりするようにいう。	034		014	
46．運動用具の使い方をみてまわる。	006		003	
47．グループノートをとる時間を与える。	004		002	
48．授業をはじめる時に出席をとる。	000		000	
49．映画（8㎜）、テレビなどを使って授業をする。	000		000	
50．技能ができないときは、そのわけを考えさせる。	034		014	
51．自分の技能を友だちの技能と比べて考えさせる。	024		010	
52．何よりも練習が大切である、という。	033		014	

第3表　教師が認める教授行動の共通因子負荷量(h^2)と因子

	教師集団	
	communalities	factors
1．授業中、わたしたちの表情や動作をみてまわる。	726	
2．この時間は、ここまでできるようになるのだ、という学習の目あてを示す。	437	
3．わたしたちが考えるのに時間を与えてくれる。	381	
4．学習する技能を先生みずからやってみせる。	706	
5．「つねる」、「たたく」等して罰をあたえるので、こわいことがある。	526	
6．体育の時間は、むりやむちゃをしないようにいう。	391	
7．えこひいきしないで、みんな同じようにあつかう。	591	
8．練習はまじめにやれという。	804	Factor 2
9．授業に使用する運動用具等みずから準備する。	405	(8)
10．練習では`理くつより実際にやることが大切であるという。	568	
11．この先生は授業中におこる。	675	
12．授業中ふざけないようにいう。	430	
13．学習する目標をはっきりいう。	769	
14．わたしたちと同じ気持になっていっしょに考えてくれる。	544	
15．友だちの話をよくきくようにいう。	672	Factor 5
16．仕事（準備、そうじ、記録がかりなど）の役割をきめる。	697	(15)
17．授業中お互いに助けあうようにいう。	849	
18．授業中は運動用具を大事にあつかうようにいう。	795	
19．授業中、わたしたちの健康状態をみてまわる。	787	
20．友だちの演技に対して、よし、あしをみきわめるようにいう。	301	
21．運動用具の並べ方などをたしかめる。	593	
22．学習する技能の本質が何であるかを理解させる。	825	Factor 4
23．運動するのにふさわしい服装について注意する。	688	(22)
24．技能の学習で、できた人はできない人に教えるようにいう。	776	
25．わたしたち（友だち）の発表をよくきくようにいう。	716	
26．わたしたちが自信を持つようにする。	648	
27．授業はじめに準備運動をする。	805	Factor 3
28．練習の順番を守るようにいう。	520	(27)
29．適当なほう助（そばから助ける）をするようにいう。	768	
30．授業をたのしくしようとする。	494	
31．友だちどうし助けあって練習するようにいう。	884	Factor 1
32．「準備がかり」などをつくってその人たちの協力を求める。	241	(31)
33．そのスポーツのルールがわかるまで説明する。	551	
34．授業のあと、運動用具のあとかたづけをさせる。	514	
35．学習している技能がよくできたときはほめる。	474	
36．グループで話しあいをする前に、自分の考えをはっきり持つようにいう。	383	
37．この授業時間のうちにやることを説明する。	714	
38．運動の技能などの説明には図表を使う。	767	
39．けがをしないように注意する。	703	
40．授業のとき、前に習ったことを聞く。	411	
41．何でもわかりやすく説明する。	551	
42．授業では、ゆきあたりばったりではなくて計画性を持っている。	711	
43．練習するスポーツのルールを自分たちで作りかえるようにいう。	483	
44．運動用具の安全を点検する。	790	
45．できないときは、人にたずねたり、自分で調べたりするようにいう。	665	
46．運動用具の使い方をみてまわる。	491	
47．グループノートをとる時間を与える。	313	
48．授業をはじめる時に出席をとる。	776	
49．映画（8㎜）、テレビなどを使って授業をする。	254	
50．技能ができないときは、そのわけを考えさせる。	877	
51．自分の技能を友だちの技能と比べて考えさせる。	823	
52．何よりも練習が大切である、という。	669	

第4表　学習行動の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1．体育の授業ではすすんで行動する。	581	Factor 1 (1)	636	Factor 1
2．体育の授業では、技能がうまくなるように神仏に祈る。	760	Factor 5	868	(1)
3．体育の授業では練習は人まかせでメモをとる役にまわる。	182	(2)	224	
4．体育の時間にはすすんで自分の考えを発表する。	470		545	
5．体育の時間は授業に熱中している。	551		594	
6．体育の時間にはわざの上手な友だちの演技を注意してみる。	337		456	
7．体育の授業では順番を守って学習（練習）する。	266		469	
8．体育の時間に、人に劣る(負ける)ようなことがあるといやになる。	293		222	
9．体育の授業では、習った技能は大切だと思って学習(練習)する。	398		434	
10．体育の授業では人のあとについていく。	383		415	
11．体育の時間に習ったことができないときは、そのまま家に帰る。	235		193	
12．体育の時間は、先生の注意を守って学習((練習）する。	353	Factor 7	640	Factor 2
13．体育の時間は、友だちの考えと自分の考えをくらべる。	559	(12)	419	(12)
14．体育の時間はまじめに授業をうけている。	456		620	
15．体育の時間で、新しいことを習うときは思いきってやってみる。	375		537	
16．体育の時間では、技能の下手な人の演技を注意してみる。	188		273	
17．体育の授業では自分からすすんで学習（練習）する。	598		656	
18．体育の時間は、先生からほめられることを期待している。	545		640	
19．体育の時間に学習する技能はあまり大切なものではないと思っている	268		396	
20．体育の時間は、運動用具が危くないことを確かめて学習(練習)する	397		376	
21．体育の授業では最後までがんばる。	566		567	
22．体育の時間では、習う技能ができるであろうと、と思って学習(練習)する。	421		430	
23．体育の時間では計画を立ててから学習（練習）する。	285		205	
24．体育の時間では、友だちの演技(わざ)と自分のわざをくらべる。	303		439	
25．体育の時間はふざける。	601		462	
26．体育の時間では、友だちの意見（考え）をきく。	298		227	
27．体育の授業では、運動用具を正しく使用する。	404		502	
28．体育の時間は先生におこられないように心がける。	465	Factor 4	363	
29．体育の時間は運動用具の準備をたしかめて学習（練習）する。	356	(28)	423	
30．体育の時間はできるだけさぼる。	402		419	
31．体育の授業は、はりきっている。	569		665	
32．体育の授業では、この前はなぜよくできたかを考えて学習(練習)する。	641		623	
33．体育の授業で習ったことをあとで友だちと話をする。	290		417	
34．体育の時間は疑問(なぜ？ どうして？）を感ずる。	270		130	
35．体育の時間はいたずらをする。	588		421	
36．体育の時間は、友だちにわかるように説明する。	412	Factor 6	566	
37．体育の授業で習ったことを、ほかのところで練習する。	355	(36)	458	(38)
38．体育の時間は、友だちにほめられることを期待している。	553		640	Factor 6
39．体育の時間では、この前はなぜできたかを考えて学習(練習)する。	578		632	Factor 3 (39)
40．体育の授業ではおしゃべりをする。	374		342	Factor 5
41．体育の時間はすすんで話しあいに参加する。	430		481	(40)
42．体育の時間は先生のいったことをノートする。	393		259	
43．体育の授業で習ったことから、法則のようなものを見つけようとする。	365		522	
44．体育の授業では、技能（わざ）ができるように神や仏に祈る。	734		881	Factor 4
45．体育の時間は、話し合いによって自分の考えをまとめる。	442		439	(44)
46．体育の時間の運動技能の学習(練習)では、前もって予想をたてる。	455	Factor 2	477	
47．体育の授業では、こわごわ学習（練習）する。	420	(46)	396	
48．体育の時間は、体育の服装に着がえる。	052		110	
49．体育の時間には、頭がいたくなる。	362	(50)	264	
50．体育の時間はよそみをする。	536	Factor 3	513	

第5表　(1)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1．*機敏な動作を養う。	431		357	
2．気分転換になる。	539		530	
3．余暇にスポーツをする態度を養う。	315		384	Factor 6
4．ストレスの解消になる。	457		344	(3)
5．指導性を養う。	347	Factor 4	377	
6．リズム感を養う。	459	(5)	313	
7．気分を爽快うする。	592		589	
8．自己の限界に挑戦する態度を養う。	470		476	
9．先生との対話ができる。	368		420	
10．体力をつける。	608		614	Factor 4
11．スポーツマンシップを育てる。	573		554	(10)
12．自主的に行動するようにする。	487		506	Factor 5
13．責任感を養う。	515	(14)	521	(12)
14．公正な態度を養う。	629	Factor 6	522	
15．健康増進に役立つ。	568	Factor 1	568	
16．持久力を養う。	577	(15)	720	
17．必要である。	736		390	
18．待ち遠しい。	745		789	Factor 2
19．運動に親しむ態度を養う。	525		449	(18)
20．協調性を養う。	475		332	
21．身体の動きを美しくする。	471		409	
22．よい性格をつくる。	515		526	
23．忍耐力を養う。	534		665	
24．積極的に行動するようにする。	487		609	
25．規律ある行動をするようにする。	527		444	
26．集中力を養う。	437		592	
27．危険から身を守る動作ができるようにする。	421		529	Factor 1
28．将来役に立つであろう。	440		523	(27)
29．人間性を豊かにする。	601	(30)	569	
30．自己の存在を表現できる。	480	Factor 7	331	
31．たのしい。	824	Factor 2	321	
32．よろこびである。	692	(31)	780	
33．人を明朗にする。	588		598	
34．人間関係を育てる。	551		445	
35．姿勢をよくするのに役立つ。	449	Factor 5	577	
36．精神をきたえてくれる。	618	(35)	641	
37．創造性を養う。	624		385	
38．身体の発育を助長する。	408		333	
39．おもしろい。	789		777	
40．もっとあってよい。	611		656	
41．根性を養う。	524		487	
42．社会性を養う。	589	(43)	498	Factor 3
43．チームワークを育てる。	549	Factor 3	344	(42)

(注)　＊番号の次に「体育の授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている

第6表 (2)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1．*おもしろい。	665		756	
2．わたしたちにとって必要である。	424		526	
3．たのしい。	585		755	Factor 3
4．待ち遠しい。	743		633	(3)
5．体力をつける。	404	Factor 1	185	
6．ストレス解消になる。	418	(4)	539	
7．喜びである。	547		634	
8．人間関係を深める。	573		485	
9．先生と仲よくできる。	247		427	
10．忍耐力を育てる。	407		531	Factor 1
11．協調性を養う。	590		439	(10)
12．健康増進に役立つ。	498		392	
13．もっとあってもよい。	413		575	
14．将来役立つであろう。	433		485	
15．気分を爽快にする。	540		636	
16．つまらない。(－)	448	Factor 2	487	
17．よい姿勢をつくる。	386	(16)	298	
18．たんなる遊びである。(－)	463	Factor 4	351	
19．人間性を豊かにする。	439	(18)	465	
20．頭を使わないですむ。(－)	310		246	
21．感覚を鋭敏にする。	502		416	
22．勉強のじゃまになる。(－)	407		389	
23．なくてもよい。(－)	482		478	
24．生徒に恥をかかせる。(－)	525	Factor 3	487	
25．気分転換になる。	345	(24)	402	
26．出席していさえすればよい。(－)	482		495	Factor 2
27．人間をかたわにする。	373		501	(26)
28．身を守るのに役立つ。	334		366	
29．劣等感をうえつける。(－)	616		429	
30．ねこをかぶってとおせる。(－)	460		415	

(注) *数字の次に「体育の授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第7表 (3)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1．*精神的なくつろぎをもたらす。	274	Factor 5	410	
2．運動の技能を向上させる。	563	(1)	659	Factor 3
3．じょうぶな身体をつくる。	611	Factor 2	644	(2)
4．明朗な性格をつくる。	574	(3)	466	
5．身体の成長を促す。	522		435	
6．身を守るのに役立つ。	403		545	
7．社会的に望ましい人間をつくるのに役立つ。	592		575	
8．運動不足を解消する。	448		344	
9．安全に運動をおこなう方法を身につけさせる。	435		415	
10．強い意志を養う。	593		631	

11. 健康の増進に役立つ。	466		565	
12. 余暇にスポーツをする態度を養う。	319		440	
13. 創造性を養う。	559		546	
14. 忍耐力を養う。	675		645	Factor 5
15. 健康の保持に役立つ。	544		661	(14)
16. 人づきあいをよくする。	548	(17)	573	
17. 人格の発達に貢献する。	657	Factor 1	688	
18. 協力しあうようにする。	670	Factor 3	667	(19)
19. 仲間のまとまりをつくるのに役立つ。	722	(18)	747	Factor 2
20. 劣等感を養う。	309	Factor 4	300	Factor 4
21. 協調性を養う。	566	(20)	590	(20)
22. チームワークを養う。	594		622	
23. 体力をつける。	546		674	
24. 危険から身を守る動作ができるようにする。	462		673	Factor 1
25. 友人関係を深める。	446		554	(24)
26. 規則を守るようにする。	264		506	
27. 根性を養う。	600		654	
28. 身体の調子をよくする。	489		630	
29. たくましい精神を養う。	599		666	
30. ゆがんだ競争心をかりたてる。	279		303	

(注)　＊番号の次に「体育の授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第8表　(4)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	男		女	
	communalities	factors	communalities	factors
1.＊待ち遠しい。	810		733	
2. 楽しい。	788		816	Factor 2
3. 勉強のじゃまになる。	565		224	(2)
4. 身体の緊張をほぐす。	559		500	
5. 気分をそう快にする。	649		711	
6. つまらない。	782		783	
7. バカバカしいものである。	731		492	
8. 喜びを味あわせる。	551		666	
9. 息ぬきの場である。	354	(10)	295	
10. 単なる遊びである。	477	Factor 3	367	
11. 心の緊張をほぐす。	565	Factor 2	524	
12. もっとあってもよい。	690	(11)	556	
13. のあとは快い興奮が残る。	458		627	
14. 深い感動を覚える。	460		692	Factor 1
15. 身体をきたえようという意欲をおこさせる。	371		530	(14)
16. 気分転換になる。	586		465	
17. 退屈である。	467		708	
18. 授業科目からはずすべきである。	514		475	
19. おもしろい。	808	Factor 1	765	
20. 生活にうるおいを与える。	555	(19)	514	

(注)　＊番号の次に「体育の授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第9表 (5)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	器械体操		マット	
	communalities	factors	communalities	factors
1.*人間性を豊かにする。	547		750	Factor 5
2. 積極的に行動するようにする。	505		618	(1)
3. 体力をつける。	533		263	
4. 情緒を安定させる。	442		575	
5. たくましいからだをつくる。	578		496	
6. 姿勢がよくなるようにする。	366		707	Factor 4
7. 体育の時間からはずすべきである。(−)	645		576	(6)
8. 人を明朗にする。	495		533	
9. 面白い。	788		764	
10. 好きである。	808		776	
11. 社会生活のためになる。	667		529	
12. 心身の発達に役に立つ。	634		589	
13. 友人関係を育てる。	746	Factor 3	568	
14. よい性格を育てる。	849	(13)	588	
15. 人づきあいをよくする。	644		732	
16. 健康増進に役立つ。	528		344	
17. よろこびである。	635		614	
18. からだの動きを美しくする。	548		690	
19. 精神をきたえてくれる。	620		562	
20. 公正な態度を養う。	719		807	Factor 1
21. 運動に親しむ態度を育てる。	641		513	(20)
22. めんどうくさい。(−)	469		386	
23. からだの動きを機敏にする。	634	Factor 4	560	
24. 危険から身を守るのに役立つ。	497	(23)	658	
25. 将来役に立つ。	584		686	
26. その技能をうまくなるようにする。	443		767	Factor 3
27. 気分転換になる。	561		681	(26)
28. 身体を強健にする。	736		613	
29. いやなものである。(−)	709		937	
30. たのしい。	813		791	
31. 勉強の邪まになる。(−)	362		617	
32. 協力しあう態度を養う。	699		495	
33. 根性を養う。	756	Factor 1	584	
34. つまらない。(−)	749	(33)	737	
35. 生活を楽しくする。	579		788	
36. きらいである。(−)	782	Factor 2	952	Factor 2
37. バカバカしいものである。(−)	743	(36)	716	(36)
38. たくましい精神を育てる。	660		697	
39. 社会性を養う。	629		761	
40. 明るい性格をつくる。	590		749	

(注) *番号の次に「体育の時間の器械・体操・マットの授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第10表　(6)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	柔道		剣道	
	communalities	factors	communalities	factors
1.* 人間性を豊かにする。	470		657	
2. 積極的に行動するようにする。	466		663	
3. 体力をつける。	588		676	
4. 情緒を安定させる。	452		768	
5. たくましいからだをつくる。	409		738	
6. 姿勢がよくなるようにする。	381		602	
7. 体育の時間からはずすべきである。(－)	430		671	
8. 人を明朗にする。	611		789	
9. 面白い。	375		827	
10. 好きである。	848	Factor 2 (10)	808	
11. 社会生活のためになる。	226		675	
12. 心身の発達に役に立つ。	747		745	
13. 友人関係を育てる。	287		745	
14. よい性格を育てる。	801	Factor 1 (14)	822	
15. 人づきあいをよくする。	327		819	Factor 1 (15)
16. 健康増進に役立つ。	553		797	
17. よろこびである。	745		680	
18. からだの動きを美しくする。	090		720	
19. 精神をきたえてくれる。	681		739	Factor 3 (19)
20. 公正な態度を養う。	626		775	
21. 運動に親しむ態度を育てる。	505		793	
22. めんどうくさい。(－)	782		582	
23. からだの動きを機敏にする。	518		700	
24. 危険から身を守るのに役立つ。	443		763	Factor 4 (24)
25. 将来役に立つ。	390		767	
26. その技能をうまくなるようにする。	494		746	
27. 気分転換になる。	422		570	Factor 5 (27)
28. 身体を強健にする。	684		797	
29. いやなものである。(－)	719		806	
30. たのしい。	807		816	
31. 勉強の邪まになる。(－)	222		550	
32. 協力しあう態度を養う。	265		637	
33. 根性を養う。	560		778	
34. つまらない。(－)	812		637	
35. 生活を楽しくする。	486		780	
36. きらいである。(－)	638		858	Factor 2 (36)
37. バカバカしいものである。(－)	792		812	
38. たくましい精神を育てる。	692		744	
39. 社会性を養う。	593		673	
40. 明るい性格をつくる。	723		658	

(注)　＊番号の次に「体育の時間の柔道、剣道の授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第11表 (7)の共通因子負荷量(h^2)と因子

	バレーボール		バスケットボール		ラグビー	
	communalities	factors	communalities	factors	communalities	factors
1．人間性を豊かにする。	595		656		417	
2．積極的に行動するようにする。	121		627		340	
3．体力をつける。	480		598		475	
4．情緒を安定させる。	495		618	Factor 4	451	
5．たくましいからだをつくる。	471		807	(4)	628	Factor 4
6．姿勢がよくなるようにする。	235		672		229	(5)
7．体育の時間からはずすべきである。(－)	780		536		693	
8．人を明朗にする。	627		612		554	Factor 3
9．面白い。	708		698	Factor 3	816	(8)
10．好きである。	686		634	(9)	861	
11．社会生活のためになる。	391		668		572	Factor 2
12．心身の発達に役に立つ。	695	Factor	703		664	(11)
13．友人関係を育てる。	614	(12)	644		573	
14．よい性格を育てる。	693		703		481	
15．人づきあいをよくする。	538		786		616	
16．健康増進に役立つ。	581		778		683	
17．よろこびである。	697		716		820	
18．からだの動きを美しくする。	586		650		395	
19．精神をきたえてくれる。	791		652		739	
20．公正な態度を養う。	546		633		310	
21．運動に親しむ態度を育てる。	757		792		649	
22．めんどうくさい。(－)	518		739		766	
23．からだの動きを機敏にする。	637		629		693	
24．危険から身を守るのに役立つ。	419		671		380	
25．将来役に立つ。	344		619		630	
26．その技能をうまくなるようにする。	572		477		335	
27．気分転換になる。	796		584		625	
28．身体を強健にする。	554		689		624	
29．いやなものである。(－)	765		784		860	
30．たのしい。	928		787		806	
31．勉強の邪まになる。(－)	662		643		374	
32．協力しあう態度を養う。	683		704		547	
33．根性を養う。	769	(34)	720	Factor 1	690	
34．つまらない。(－)	874	Factor 1	731	(33)	888	
35．生活を楽しくする。	818	Factor 3	639		699	
36．きらいである。(－)	624	(35)	778	Factor 2	864	Factor 1
37．バカバカしいものである。(－)	841		730	(36)	821	(36)
38．たくましい精神を育てる。	756		738		652	
39．社会性を養う。	651		689		622	
40．明るい性格をつくる。	723		677		691	

(注)　＊番号の次に「体育の時間のバレーボール・バスケットボール・ラグビーの授業は」が省略されている。
小数点は全て省略されている。

第12表　男子のための評定項目

1．体育の授業はおもしろい。
2．体育の授業は公正な態度を養う。
3．体育の授業は協力しあうようにする。
4．体育の授業は健康増進に役立つ。
5．体育の授業は心の緊張をほぐす。
6．体育の授業は姿勢をよくするのに役立つ。
7．体育の授業は指導性を養う。
8．体育の授業は自己の存在を表現できる。
9．体育の授業はじようぶな身体をつくる。
10.*体育の授業は生徒に恥をかかせる。
11．体育の授業は精神的なくつろぎをもたらす。
12．体育の授業は人格の発達に貢献する。
13．体育の授業はたのしい。
14.*体育の授業はたんなる遊びである。
15．体育の授業はチームワークを育てる。
16.*体育の授業はつまらない。
17.*体育の授業は劣等感を養う。
18．体育の授業は待ち遠しい。

第13表　女子のための評定項目

1．体育の授業は運動の技能を向上させる。
2．体育の授業は危険から身を守る動作ができるようにする。
3．体育の授業は自主的に行動するようにする。
4．体育の授業は社会性を養う。
5．体育の授業は出席していさえすればよい。
6．体育の授業は体力をつける。
7．体育の授業はたのしい。
8．体育の授業は仲間のまとまりをつくるのに役立つ。
9．体育の授業は忍耐力を養う。
10．体育の授業は深い感動を覚える。
11．体育の授業は劣等感を養う。
12．体育の授業は待ち遠しい。
13．体育の授業は余暇にスポーツをする態度を養う。

多くの場合それは因子負荷量の高いものを数個とり出してふさわしい名をつけるのが普通である。

ところが、ここでは、因子負荷量の最大なもの一個から命名することにしたので、あるいはピッタリした名まえがつけにくいものであった。

なお、授業評価に関しては男女別に示し、スポーツ教材による態度の調査は全て男子であることを再記しよう。

命名した因子については、第12、13、14表の通りである。

かくして、結論的にこれらのstatementによっていわゆる授業評価、授業に対する態度が調査されることが望ましいことになる。

第14表　男女共通の評定項目

1．体育の授業は運動技能を向上させる。
2．体育の授業はおもしろい。
3．体育の授業は公正な態度を養う。
4．体育の授業は健康増進に役立つ。
5．体育の授業はたんなる遊びである。
6．体育の授業は協力しあうようにする。
7．体育の授業は心の緊張をほぐしてくれる。
8．体育の授業は自主的に行動するようにする。
9．体育の授業は社会性を養う。
10．体育の授業は姿勢をよくするのに役立つ。
11．体育の授業は指導性を養う。
12．体育の授業は自己の存在を表現できる。
13.*体育の授業は出席していさえすればよい。
14．体育の授業はじようぶな身体をつくる。
15．体育の授業は人格の発達に貢献する。
16.*体育の授業はつまらない。
17.*体育の授業は生徒に恥をかかせる。
18．体育の授業は精神的くつろぎをもたらす。
19．体育の授業は体力をつける。
20．体育の授業はたのしい。
21．体育の授業は、仲間のまとまりをつくるのに役立つ。
22．体育の授業はチームワークを育てる。
23．体育の授業は深い感動を与える。
24.*体育の授業は劣等感を養う。
25．体育の授業は待ち遠しい。
26．体育の授業は、身を守る動作ができるようにする。
27．体育の授業は余暇にスポーツをする態度を養う。

（注）＊印は非好意的意見である。

1．授業評価に関してみられた因子名

授業評価について見られた因子名は次のとおりである。

(1) 教授行動に関してみられた因子は、男子に8因子、女子に9因子がみられた。運動用具、学習目標、学習者の相互協力などの因子に共通性がみられたが、男女にはちがった因子が表われた。

(2) 学習行動に関してみられた因子は、男子7、女子6因子である。教授行動と同様に、共通にみられたものとしては、積極的態度、まじめな学習態度、賞讃の期待、運動技能などであるが、学習行動においては、男女にひじょうに類似した因子がみられた。

(3) 教師が、自己の授業を自己評価した「教授行動」の因子は5こ抽出できた。命名した因子をみると、生徒の学習行動にみられた因子と類似性がみられ、教師だけにみられる因子としては準備運動の因子をあげることができるにすぎない。

①教授行動の因子構造と因子名

〈男　子〉

FACTOR 1. ……楽しさ
FACTOR 2. ……指導の計画性
FACTOR 3. ……範示
FACTOR 4. ……運動用具
FACTOR 5. ……学習者相互のバックアップ
FACTOR 6. ……学習目標
FACTOR 7. ……復習
FACTOR 8. ……学習者相互の協力

〈女　子〉

FACTOR 1. ……運動用具
FACTOR 2. ……独自性
FACTOR 3. ……教師の情緒の安定
FACTOR 4. ……学習目標
FACTOR 5. ……運動用具の整備
FACTOR 6. ……指導の計画性
FACTOR 7. ……指導資料
FACTOR 8. ……運動用具のとりあつかい
FACTOR 9. ……学習相互の支援

②学習行動の因子構造と因子名

〈男　子〉

FACTOR 1. ……積極的態度
FACTOR 2. ……練習の予想
FACTOR 3. ……よそみ
FACTOR 4. ……賞讃の期待
FACTOR 5. ……運動技能〈他力本願〉
FACTOR 6. ……友人関係
FACTOR 7. ……まじめな学習態度

〈女 T子〉

FACTOR 1. ……積極的行動
FACTOR 2. ……まじめな学習態度
FACTOR 3. ……フィードバック
FACTOR 4. ……運動技能〈他力本願〉
FACTOR 5. ……おしゃべり
FACTOR 6. ……賞讃の期待

③教師が自己評価した教授行動の因子名

FACTOR 1. ……友だちの協力
FACTOR 2. ……真面目な練習
FACTOR 3. ……準備運動
FACTOR 4. ……運動用具の準備
FACTOR 5. ……友だちの話をきく

2．体育の授業に対する態度の因子名

体育の授業をマクロ的にとらえた態度は、次の4この調査によっている。

(1) 43この質問項目によるもの。
(2) 30この質問項目によるもの(A)。
(3) 30この質問項目によるもの(B)。
(4) 20この質問項目によるもの。

(1)では、男子7因子、女子6因子がみられた。男女共通な因子として、安全、たのしさ、社会性、健康・体力などがみられた。

(2)では、男子、女子とも5この因子に命名した。共通するものとして、体育の精神的効果、社会的効果、競争性をあげることができる。

(3)項目が30こ（B）のものでは、男子4、女子3この因子がみられ、たのしみ、体育的価値、

仮面性の因子が男女共通していた。

(4)20問に簡略化したものでは、男子3、女子2この因子がみられ、くつろぎの因子が共通にみられたにすぎない。

①授業に対する一般的態度の因子名
—43問—

〈男　子〉

FACTOR 1. ……健康、体力
FACTOR 2. ……たのしさ
FACTOR 3. ……社会性
FACTOR 4. ……指導性
FACTOR 5. ……安全
FACTOR 6. ……公正な態度
FACTOR 7. ……自己顕示

〈女　子〉

FACTOR 1. ……安全
FACTOR 2. ……たのしさ
FACTOR 3. ……社会性
FACTOR 4. ……健康、体力
FACTOR 5. ……自主性
FACTOR 6. ……余暇の利用

②授業に対する一般的態度の因子名
——30問(A)—

〈男　子〉

FACTOR 1. ……精神的効果
FACTOR 2. ……身体的効果
FACTOR 3. ……社会的効果
FACTOR 4. ……競争性
FACTOR 5. ……安全、レクリエーション的効果

〈女　子〉

FACTOR 1. ……精神的効果
FACTOR 2. ……社会的効果
FACTOR 3. ……レクリエーション的効果
FACTOR 4. ……競争性
FACTOR 5. ……がんばり

③授業に対する一般的態度の因子名
—30問(B)—

〈男　子〉

FACTOR 1. ……たのしみ
FACTOR 2. ……体育的価値
FACTOR 3. ……仮面性
FACTOR 4. ……価値否定的

〈女　子〉

FACTOR 1. ……体育的価値
FACTOR 2. ……仮面性
FACTOR 3. ……たのしみ

④授業に対する一般的態度の因子名
—20問—

〈男　子〉

FACTOR 1. ……楽しさ
FACTOR 2. ……くつろぎ
FACTOR 3. ……評価

FACTOR 1. ……よろこび
FACTOR 2. ……くつろぎ

3. 教材別にみた体育の授業に対すゆ態度の因子名

さきにも述べたように、教材を個人種目、集団種目および格技に類型化し、それぞれに対する態度を40項目によってながめた。この項は、すべて男子の生徒の態度についてである。

(1)器械運動とマットの授業に対するものには、各4この因子を命名した。好き—きらいの態度、社会的態度、身体的効果に男女共通の因子がみられた。

(2) 集団的スポーツ、ここでは球技をとりあげたが、これらには、3～4この因子がみられたが、全てに共通する因子はなかった。

(3) 格技（柔道、剣道）の授業に対する態度の因子には、両者に共通する因子はみられなかった。

①器械体操、マットの授業に対する態度の因子名

○器械体操

FACTOR 1. ……精神的効果
FACTOR 2. ……好き—きらいの態度
FACTOR 3. ……よい社会的性格
FACTOR 4. ……身体的効果

○マット　…

FACTOR 1. ……社会的態度

FACTOR 2. ……好き－きらいの態度
FACTOR 3. ……技能的価値
FACTOR 4. ……身体的効果
FACTOR 5. ……人間性

②バレーボール、バスケットボール、ラグビーの授業に対する態度の因子名

○バレーボール
FACTOR 1. ……情緒的
FACTOR 2. ……社会性
FACTOR 3. ……レクリェーション

○バスケットボール
FACTOR 1. ……身体的効果
FACTOR 2. ……好き－きらいの態度(＋)
FACTOR 3. ……好き－きらいの態度(－)
FACTOR 4. ……情緒の安定

○ラグビー
FACTOR 1. ……好き－きらいの態度(－)
FACTOR 2. ……精神的効果
FACTOR 3. ……社会性
FACTOR 4. ……身体的効果

③柔道、剣道の授業に対する態度の因子名

○柔道
FACTOR 1. ……よい性格
FACTOR 2. ……好き－きらいの態度

○剣道
FACTOR 1. ……社交性
FACTOR 2. ……好き－きらいの態度
FACTOR 3. ……精神的効果
FACTOR 4. ……安全
FACTOR 5. ……気分転換

このようにして、体育の授業における教授行動、学習行動などや、体育の授業（マクロ、ミクロ的）に対する態度の因子分析の結果には、数多くの因子がみだされた。

ここで、これらの結果を総括的にながめ、体育の授業に対する態度を調査するにふさわしい項目を決定したのである。

それには、ここにみだされた因子のうち、共通（ダブリ）のものを単純化（削除）し、全項目を蒙らする内容が最適だという考えができる。一般に Likert 法による statement の採択は、かなり研究者の恣意にゆだねられているが、このような手続きを経て statement を決定することによりその妥当性を高めることができる。

このような操作をした後に整理したものが第12、13、14、15表に示す通りの statement である。

第15表　スポーツ教材を指定したときの項目

1.(＊＊)の授業はおもしろい。
2.(　　)の授業はからだの動きを機敏にする。
3.(　　)の授業は危険から身を守るのに役立つ。
4.(　　)の授業は気分転換になる。
5*.(　　)の授業はきらいである。
6.(　　)の授業は公正な態度を養う。
7.(　　)の授業は根性を養う。
8.(　　)の授業は姿勢がよくなるようにする。
9.(　　)の授業は社会生活のためになる。
10.(　　)の授業は心身の発達に役に立つ。
11.(　　)の授業は情緒を安定させる。
12.(　　)の授業は好きである。
13.(　　)の授業は生活を楽しくする。
14.(　　)の授業は精神をきたえてくれる。
15.(　　)の授業は技能がうまくなるようにする。
16.(　　)の授業はたくましい身体をつくる。
17*.(　　)の授業はつまらない。
18.(　　)の授業は人間性を豊かにする。
19.(　　)の授業は人づきあいをよくする。
20.(　　)の授業は人を明朗にする。
21.(　　)の授業は育人関係を育てる。
22.(　　)の授業はよい性格をつくる。

＊　非好意的意見である。
＊＊　授業の教材としてのスポーツ名を入れる。

文献

(1) Borich, G.D. et al; Evaluating classroom introduction, A source book of instruments. 1977

(2) Broer, M.R. et al; Attitude of University Washington woman students toward physical activity. Research Quarterly, Vol. 26, No. 4, pp. 492-501, 1955

(3) Brumbach, W.B.; A response Petri's note on statistical analysis of attitude scales. Research Quarterly, Vol. 40, No. 2, pp. 436-442, 1969

(4) Campbell, D.E. ; Relationship between scores on Wear inventory and selected physical fitness scores. Research Quarterly, Vol. 40, No. 3, pp.470-474, 1969

(5) Cattell, R.B.; Factor analysis in introduction and manual of psychologist and social scientist. 1952

(6) Edginngon, C.W.; Development of an attitude scale to measure attitudes of high school freshman boys toward physical education. Research Quarterly, Vol. 39, No. 3, pp. 505-512, 1968

(7) Flander, V.A; Analysing teaching behavior. Addison-Wesley, pp. 33-53, 1970

(8) Hosford. P.L.; An introductional theory; A beginning, Prentice-Hall, 1973

(9) Hsu, E.H.; The intropersonal factor and its clinical applicability, Journal of Personality, No. 17, pp. 273-286, 1949

(10) Kakie, W.; Expressed attitudes of various groups of athletes toward athletic competition. Research Quarterly, Vol. 35, No. 4, pp. 496-503, 1964

(11) Likert, R.; A technique for measurement of attitude. Archives Psychology, 1932

(12) McCallon, E.L. et al; A semantic differential instrument for measuring attitude toward mathematics. The Journal of Experimental Education, Vol. 39, No. 4, pp. 243, 1971

(13) O'bryan, M.H. et al ; Attitudes of males toward selected aspect of physical education. Research Quartelry, Vol. 40, No. 2, pp. 343-352, 1969

(14) Osgood, C.E. et al ; The measurement of meaning. University of Illinois Press. 1975

(15) Pstries, B.M.; Statistical analysis of attitude scale scores. Research Quarerly, Vol. 40. No. 2, pp. 434-436, 1969

(16) Selby, R. et al; Children attitude toward females in sports; Their relationship with sex, grade, and sports participation. Research Quarterly, Vol. 47, No. 3, pp. 453-463, 1976

(17) Senyon, G.; Six scales for assessing attitude toward physical activity. Research Quarterly, Vol. 39, No. 3, pp. 566-574, 1968

(18) Smoll, F.L. et al; Relationship among children's attitudes, involvement, and efficiency in physical activities. Research Quarterly, Vol. 47, No. 4, pp. 797-803, 1976

(19) Straub, W.F. et al ; Attitudes toward physical activity of deliquent and non-deliquent junior high school age girls. Research Quarterly, Vol. 45, No. 1, pp. 21-27, 1974

(20) Triandis H.C. Attitude and attitude change. 1971

(21) Wear, C.L.; The evaluation of attitude toward physical education as an activity course. Research Quarterly, Vol. 22, No. 1, pp. 114-126, 1951

(22) Wessel, J.A. et al ; Relationship between strength and an attitudes toward physical education among college women. Research Quarterly. Vol. 35, No 4, pp. 562-569, 1964

(23) White R.E. et al ; Leader behavior and member reaction in three social climates, in D. Cartwright and A. Zander, Group Dynamics Research and Theory, pp. 585-611, 1953

(24) Zaichkowsy., L.B.; Attitudinal differences in two types of physical education programs. Research Quarterly, Vol. 46, No. 3, pp. 364-370, 1976

(25) 浅井正昭：身体表出運動の認知に関する心理学的研究、日本大学人文科学研究所研究紀要、Vol. 23, pp. 88-97, 1980

(26) 小林　篤：体育の授業研究、大修館、1978

(27) 宗倉　啓：大学生が評価する高校体育授業の現状，東京体育学研究，No. 5, pp. 42-47, 1978

(28) 司馬正次：データ解析入門，SPSSへの招待，東洋経済新報社，1977

(29) 高田典衛：授業としての体育，杏林書院，1972

(30) 徳永幹雄ほか：体育授業の「運動の楽しさ」に関する因子分析的研究，健康科学，Vol. 2, pp. 73-90, 1980

(31) 野口義之：高等学校におけるスポーツ教材につ

いて，京都教育大学紀要，A., No. 35, pp. 5-104, 1969

(32) 野口義之：中・高等学校生徒の体育の授業に対する態度，京都教育大学教育研究所報，No. 20. pp. 150-162, No. 21, pp. 125-133, 1974, 75

(33) 野口義之：体育の授業の因子分析的研究，第1報，高等学校時代の体育の授業について，京教大紀要，Ser. A. No. 56, pp. 90-111, 1979

(34) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(2)第2報，中学時代の体育の授業に対する態度，京都教育大学紀要，Sor. A, No. 57, pp. 135-150 1880

(35) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(3)第3報：高等学校生徒の現在の体育の授業に対する態度，京都教育大学紀要，Ser. A. No. 57, pp. 151-169, 1980

(36) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(4)—学習者の教材（マット，柔道，バレーボール）に対する態度—，日本教科教育学会誌，Vol. 5, No. 2, pp. 77－84, 1980

(37) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(5)—授業に対する態度—学校体育，Vol. 34 No. 2, pp. 129-131, 1981

(38) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(6)—体育の授業に対する態度—新体育，Vol. 50, No. 5, pp. 428-431, 1980

(39) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(7)—教材別にみた学習者（高等学校男子生徒）の授業に対する態度，京都教育大学紀要，Ser. A. No. 58, pp. 89-103, 1981

(40) 野口義之：体育の授業に関する因子分析的研究(8)—体育専攻学生のみた高等学校時代の教授行動と学習行動—，京都教育大学教育研究所所報，No. 27, pp. 77-95, 1981

(41) 野口義之，鬼塚幸一ほか：体育の授業に関する因子分析的研究（9－1）—体育の授業評価（教授行動）について—金沢大学教育学部紀要，教育科学編，第31号，pp. 69-83, 1982

(42) 野口義之，吉田文久ほか：体育の授業に関する因子分析的研究（9－2）—体育の授業評価（学習行動，学習集団の雰囲気）について—，金沢大学教育学部紀要，第31号，pp. 85-98, 1982

(43) 野口義之ほか：体育の授業に関する因子分析的研究（10－1）—体育の授業に対する態度の因子分析的研究—金沢大学教育学部教科教育研究 No. 18, pp. 179-196, 1982

(44) 野口義之ほか：体育の授業に関する因子分析的研究（10－2）—体育の授業に対する態度 金沢大学教育学部教科教育研究第19号，pp. 151-165, 1983

(45) 野口義之：高等学校における体育の授業の自己評価による体育担当教師の類型について，京都教育大学教育研究所所報，第26号，pp. 74-92, 1980

(46) 野口義之：よい授業への方法を求めての基礎的研究(1)—教授行動の因子分析—体育の科学，Vol. 30, No. 7, pp. 523-527, 1980

(47) 野口義之：よい授業への方法を求めての基礎的研究(2)—学習行動の因子分析—体育の科学，Vol. 30, No. 8, pp. 605-608, 1980

(48) 野口義之：よい授業への方法を求めての基礎的研究(3)—学習集団の雰囲気の因子分析—体育の科学，Vol. 30, No. 9, pp. 665-670, 1980

(49) 野口義之，吉田文久：体育の授業に対する態度の因子分析的研究，日本体育学会第31回大会号，pp. 799, 1980

(50) 野口義之，鬼塚幸一：体育の授業に対する態度の因子分析的研究—教材別にみた学習者の態度について—日本体育学会第31回大会号，pp. 800, 1980

(51) 波多野義郎：運動能力の異なる大学生が評価する学校体育授業，東京体育学研究，No. 6, pp. 13-18, 1979

(52) 三隅二不二：学級雰囲気に関するグループダイナミックスの研究，第1報告，九州大学教育学部紀要，第5集，pp. 4-57, 1958

(53) 三隅二不二，同，第2報告，所謂専制的，民主的，自由放任的指導タイプの効果に関するCross-Cultural Study. 第3報告，（第6集），pp. 11-27, 1961

(54) 三隅二不二：リーダーシップ行動の科学，有斐閣，1978

(55) 吉崎静夫ほか：児童による授業評価，日本教育工学雑誌，Vol. 4, No. 2, 1979

(56) 吉本二郎：新しい授業の条件と方法，ぎょうせい，1977

(57) 矢野久英：運動への学習指導，日本保育社，1979